

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	○学習指導の充実…「確かな学力の定着」への取組
目標(評価規準)		育てたい資質・能力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図るとともに、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、確かな学力の向上につなげていく。
重点に係る現状 設定理由		算数専科の授業だけでなく、児童主体の授業が増えてきている。引き続き「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図るとともに、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、確かな学力の向上につなげていく。

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	A～Dの4段階で評定したアンケートでは、9割以上の教員がA及びB評価を選択してる。引き続き、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を改善していこうとする意欲がより生まれてきている。今後は、更に個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、より確かな学力につながるようにしていきたい。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、基礎・基本充実の取組に関する設問においてABの計が9割を超え、今年度は92%(A評定は49%)に達した。「確かな学力」の土台となる基礎・基本充実に関して、安定して高評価をいただいている。しかし、「あまりあてはまらない」と回答した人も、8%いるため継続してより確かな学力になるように指導していきたい。
自己評価結果 (見解と改善方策)	今年度も研究推進委員会を中心に、全教員が研究授業を行うことで、授業力の向上に努めた。学校研究のテーマは「生き生きと学ぶ子～非認知能力が拓く学び～」として研究を深めていった。 「三浦市学力調査」においても、国語については、記述式の正答率が低かったことや「全国学力学習状況調査」においても、「自分の考えを文章等で表現する力」が各教科で苦手であるという結果が出た。 そのため、普段の中でも授業の中でも他者と交流し自分の考えを伝えることを大事にしていくことが必要であると捉えている。授業の中で教師が意識しながら指示の仕方や声掛けを工夫し、教育活動を進めていくことの大事さを確認した。今後も続けていきたい。
学校関係者評価結果	学校研究で進めている「生き生きと学ぶ子～非認知能力が拓く学び～」が分かりづらい。焦点化して、研究を進めていったほうが良い。また、「自分の考えを文章等で表現する力」については大人でも難しい力である。名向小学校が行っている特色のある学校作りについてもっと発信していくべきである。
最終改善方策	今後も、学校研究の成果をふまえて、来年度も「確かな学力の定着」への取組を実施していきたい。そのためには、今年度のように授業公開を通して教師の実力をつけていきたい。また、教師の力量をさらに高めていくための研修活動を行ってきたい。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	○子どもの心を豊かにすることを目指し、「人権感覚を磨く」という視点で道徳の時間を充実する
目標(評価規準)		自分自身の肯定感を高めるとともに、人とかかわりの中で思いやりの心を育て、人権尊重の精神を涵養し、豊かな道徳性を養う。また、コミュニケーション能力の向上に努め、他者と協働する価値に気づかせる。
重点に係る現状 設定理由		人とかかわりの中で「自分の大切さとともに、相手の大切さを認められる」人権感覚や相手の立場や考え方を想像し理解しようとするような態度を養う。さらに思いやりをもって他者と接することができる豊かな心の育成を図る。また、授業の中だけでなく、縦割り活動や朝の学習の時間など教育活動全体を通してコミュニケーション能力の向上に努め、他者と協働することの価値に気づかせる。

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	A～Dの4段階で評定したアンケートでは、A評価及びB評価が大半を占めた。「子どものことを理解し、適切な指導をしている」の項目でA評価が37%、B評価が63%であった。今後も、更に教職員自身が自信をもってA評価をつけられるようになってほしい。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、児童指導の設問においてABの計が9割を超え、今年度は90%(A評定は43%)に達した。また、各学級の児童の様子に関して「ルールを守り協力している」96%(A評定は56%)「楽しそうに登校している」が100%(A評定は89%)という結果だった。
自己評価結果 (見解と改善方策)	本校児童は、135名 家庭実数99の単学級であるため、他者との関わりの中で見方や考え方を広げるといった経験が少なく、「学びたい」といった内発的な意欲や困難に対して粘り強く諦めずに挑戦する力が弱く、その育成が必要であると考えた。 そこで、学校研究でも、朝の取り組み等で歌を歌う時間を設定し朝会で全校合唱を行ったり、児童会活動として縦割り班を作り活動の時間を作ったりしている。また、職員会議に児童指導委員会から、各クラスの問題行動や配慮を要する児童の様子について、情報交換を行い、組織的に対応するように努めている。また、突発的な出来事については、火・木に行われる「タうち」(打ち合わせ)でも行っている。今後も、学校内だけでなくSCや武山支援学校、ことばの教室、三浦市教育委員会とも連携し、学校だけでなく、関係機関とも協力して、よりよい対応を考えていきたい。
学校関係者評価結果	児童アンケートの「自分のことに関わる問い」に×をつけている子どもが気になる。縦わりの様々な活動を行う中で、人との関わりを学ぶ良い機会になるのではないか。
最終改善方策	今後も、小規模校の良さを生かして、全教職員で子どもたちを育てるという意識を大切にしていく。また、情報共有を十分に行うことで組織的な対応ができるようにしていく。さらに、SCやSSW、近隣の学校、教育委員会、支援学校などの他機関とも連携することで教育的効果を上げていく。そして、いじめの未然防止を意識し、人権感覚を大切にしたい児童指導を更に充実させる。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	○地域・家庭・学校との連携…「地域教育力の活用」への取組
目標(評価規準)	児童が主体的・探究的・協働的に課題解決に取り組む地域素材を生かした教育活動を積極的に推進し、より良く課題を解決し自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。	
重点に係る現状 設定理由	栽培活動や海洋教育において、地域の環境資源を生かした豊かな教育活動を展開していく。また、児童が主体的・探究的・協働的に課題解決に取り組める教育活動を推進していく。さらに、学校の状況や本校の教育活動のねらいを積極的に情報提供し、家庭・地域・学校がともに連携して子どもたちを育む風土を醸成していく。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	A～Dの4段階で評定したアンケートで、多くの教員がA評価及びB評価を選択している。本校の特色ある教育活動が定着してきているので、さらに学びの質の向上を追求していきたい。教職員から家庭への連絡や相談を更に充実させることで、寄り添いながら丁寧に関わり、信頼関係の構築に日々努めていきたい。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、家庭との連絡・相談の設問においてABの計が8割を超え、今年度は89%(A評定は54%)であった。また、海洋教育など学校の特色をいかした活動を問う設問では、100%(A評定は76%)という高い評価をいただいた。引き続き学校の特色として取り組んでいきたい。
自己評価結果 (見解と改善方策)	本校の特色である海洋教育や栽培活動については、保護者や教職員からも評価が高く、今年度も充実した活動を行うことができた。アオリイカの産卵床づくりを体験できた事は、有意義だった。また、真珠養殖体験に、多くの保護者が参加できた事も、体験活動の意義をご理解いただくうえで有効だった。これらの体験活動を探究的な学びとつなげられるようにさらに工夫していく。 運動会や授業参観・学習発表会など子どもたちの成長を実感していただく場を提供できた事は、家庭・地域と連携を図るうえで効果的だった。 しかし、保護者アンケートの「家庭との連携や相談」について、「あまりあてはまらない」が11%あったことは学校としても重く受け止めていきたい。
学校関係者評価結果	アオリイカの産卵床づくりや真珠の養殖体験は、名向小学校の特色ある教育活動なのでオンラインなどで、他校に知ってもらえるように発信して行ってほしい。運動会でのPTA種目などを行ったことが、大人が真剣な姿を見せられる良い機会になった。
最終改善方策	地域の教育的な資源を生かして、学校の特色を生かした生活科、総合的な学習の時間を作っていく。また、学校園などの体験学習も引き続き行っていく。また、引き続き地域の方々の協力が得やすい、地域に愛される学校作りを目指していく。